

会計報告

4月から新会計年度です。
年会費(5000円)にご協力をお願いします。

前年度は景気の回復(?)から、収入増を見込んだものの、在日同胞経済には厳しいものがあり、期中残高が大幅に落ち込みました。まず、年会費が未納となっている会員の皆様に年会費のお願いを通知いたしまして、20名程度の方から年会費・賛助金を頂きました。さらに不足分は有力会員10名程度の方に状況をご説明し、追加の賛助金を頂きました。おかげをもちまして、期末の繰越残高は概ね健全なレベルで終えることができました。

状況の厳しい中、ご支援を頂きました方にはこの場を借りまして、改めて深謝致す次第です。

新年度は、在校生&若手との交流に重点的に支出を振り向けていく方針であります。

会員の皆様におかれましては、引き続き、ご支援、アドバイスを頂けます様、お願い申し上げます。

年会費・賛助金、ご芳名/敬称略(2013年4月~2014年3月)

梁道基	180,000	宋茂	5,000
徐東湖	150,000	徐富男	5,000
李春夫	150,000	李徳烈	5,000
呉世一	120,000	曹朝絃	5,000
金君夫	110,000	鄧星学	5,000
琴栄吉	100,000	林哲	5,000
沈広斐	100,000	鄧彰三	5,000
文一棟	80,000	朴容露	5,000
金明煥	70,000	朴平道	5,000
安玉錫	50,000	朴喜徳	5,000
裴敬隆	50,000	朴燦錫	5,000
金毛圭	30,000	朴善善	5,000
河相淳	30,000	南相基	5,000
梁徳守	25,000	柳宇徹	5,000
李錫植	20,000	李起夏	5,000
權寧勲	20,000	李板成	5,000
鄭守敏	15,000	李善添	5,000
金漢相	10,000	李長杰	5,000
崔得海	10,000	李春雄	5,000
沈重輔	10,000	李範洛	5,000
康泰鎮	10,000	李永燦	5,000
李宇海	10,000	李誠	5,000
金海天	8,000	鄧相植	5,000
安煥煥	5,000	高永植	5,000
姜徳相	5,000	張潤台	5,000
韓熙相	5,000	趙宏濟	5,000
姜勲	5,000	曹朝絃	5,000
金協一	5,000	黃民愛	3,000
金基弘	5,000	閔口八州男	3,000
崔然睦	5,000	(不明)	5,000
崔相敦	5,000	合計	1,544,000

●収支表● 2013年4月1日~3月31日

収入の部 (A)	(円) 3,437,743
前年度繰越金	1,406,743
イベント会費	487,000
年会費	293,000
賛助金	1,251,000
広告費	0
支出の部 (B)	1,692,850
会議費	132,973
会報等印刷費	189,000
慶弔費	64,650
イベント補助費	1,219,702
交通費	980
通信事務費	85,545
収支 (A-B)	1,744,893
三菱東京UFJ銀行残高	350,203
ゆうちょ銀行残高	1,394,690

年会費(5000円)・協賛金
【振込先】
ゆうちょ銀行
00170-5-37085
早稲田大学・ウリ稲門会

ウリ稲門会ゴルフ会開催のお知らせ

皆様大変お待たせいたしました。
前回から少しはかり間が開きました。
恒例のウリ稲門会ゴルフ会を右記要領にて開催いたします。
多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。
お待ちしております。

日時:6月12日 木曜日
場所:茨城ゴルフ倶楽部 東コース
(キャディ、乗用カート付き)
会費:未定
ウリ稲門会ゴルフ会会長 呉世一
代表幹事 安昌煥

編集後記

私がスノーボードを始めたのは20世紀のこと。長野五輪の前で、まだオリンピックの正式種目ではなかった頃です。以来、20年近くになりました。ボードに乗らずにシーズを終えたことはありません。この10年ほどは、北海道ニセコでパウダースノーを満喫するのが冬のなよりの楽しみです。

ニセコといえば「オーストラリアあふれるリゾート地」とのイメージがすっかり定着しています。実際、満員の居酒屋で私たち夫婦以外のお客さんすべてがオージー、隣席では物静かな金髪男性が一人でお猪口を傾ける、なんて年もありました。しかし、近年はそうとも限らないのです。

極上の雪に包まれ、晴れば羊蹄山が見渡せるアジア最高のグレンデから聴こえてくる言語は、英語、日本語、フランス語、スペイン語、たまに韓国語、そして中国語と多岐にわたります。今年の2月の初頭に行った際は、旧正月つまり春節と重なっていたために、中国とりわけ香港からリゾート客が大挙してやって来ていました。3月の初頭に再訪した際は、定年を過ぎた日本のおじさんたちが最新の鮮やかなウェア

ーでその技量を存分に披露していました。もちろんデカくて陽気なオーストラリアの人たちも、思い思いに雪の上を転げ落ち嬌声をあげています。

北海道のスキー場でそんな光景が広がっている一方で、東京近郊埼玉県下のサッカー場は「JAPANESE ONLY」だそうです。「あの横断幕をおろさせろ」と他のサポーターが要請したにもかかわらず、気概もなければ哲学もないクラブチームは試合が終わるまで放置したままでした。自浄能力がないことを見て取ったリーグが即座に制裁措置を講じましたが、実はこの顔末こそが今日の日本社会の縮図。今一度、気を確かに持ちましょう。「JAPANESE ONLY」と悪びれもせず平然と公言する彼らと、私たちは地続きの場所で生きて

(編集部 朴魯善)



今年50歳を迎える筆者

頂上に向かうオーストラリア人たち



WASEDA ALUMNI
SINCE 1885

早稲田大学ウリ稲門会

〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-4-5
明広ビル4階
TEL03-3345-7618
FAX03-3348-8746

発行人: 金君夫(編集:編集委員会)

第24号

INDEX

1. 会長ご挨拶
2. 活動レポート
 - 納涼会
 - 拡大幹事会・送年会
 - 2014年新年会
 - 黄民愛学兄寄稿
3. 韓国校友会との交流
4. 李成市学兄
母校文学部学部長就任
5. 趙宏濟学兄寄稿
6. 会計報告
7. 編集後記

会長ご挨拶

早稲田大学ウリ稲門会会員のみなさん、アンニョン ハシムニカ。いかがお過ごしでしょうか。まれにみる大雪と寒波に驚かされた冬が過ぎ、暖かい春がようやくやって来ました。今回は、私たち早稲田大学ウリ稲門会が抱える課題について語りしたいと思います。



金君夫会長

早稲田大学ウリ稲門会は、過去に南北の対立・葛藤もありましたが、それをよく克服して、今日においては他大学には見られない、統一した母校唯一の在日同胞同窓会組織として存在しています。その故に、ウリ稲門会は、いかなる政治・宗教・思想・信条にも、いかなる団体によっても拘束されない、民主的で自主的で自由な、同窓生の親睦を旨とする団体です。それはまさに誇るべきことでしょう。

過去の同窓会は、「老 壮 青」すなわち60代から20代までの各世代が万遍なく集って構成されてきました。また在校生の間にも韓文研・朝文研があって、それぞれが活発に活動していました。今日はどうでしょう。ウリ稲門会の高齢化は否めず、ざりと新規加入は著しく先細りしています。かつて活発だった在校生の学内組織も消滅して久しく、在校生との紐帯を確保することもままなりません。私たちは冷静にウリ稲門会の現状を直視しなければなりません。このままでは将来が危ぶれます。

かねてより、大学当局から奨学金制度を作ってもらえないだろうかとのお要請がありました。日本全国にその地域に根ざした奨学金制度があり、世界各国には自国の早稲田留学生に対する奨学金制度があり、韓国校友会も、例年その授与式に招かれています。我が国に在籍する在日同胞在校生130名余にアンケート調査を行いました。その回答に後輩たちは驚いていました。「同胞学生との交流の場がほしい」「ウリ稲門会の行事には是非参加したい」「今後も連絡がほしい」「奨学金制度ができたなら受領したい」等々。母校で学ぶ後輩たちを積極的に応援すること、これこそが閉塞した状況を打開する有効な術なのではないでしょうか。

1学生に40万円、1年2人に賦与。それを10年続ける資金準備。大学当局と相談しながら描いている私たちの奨学金制度の青写真です。優秀な在日同胞学生を支援することは、当会の将来を切り開くことであり、母校早稲田大学の発展に貢献することであり、ひいては在日同胞社会の発展に寄与することにも他なりません。本年2月16日、新年会の良き日に「早稲田大学ウリ稲門会奨学金制度設立準備委員会」を立ち上げました。想いを同じくする学兄の賛同も得て、資金準備の70%ほどは目処も立ちました。会員皆様のご協力をおおきく、是非とも完結させたいと思います。よろしくお祈りいたします。

校歌に唄われているように、私たちに 仰ぐは同じき理想の光がある。私たちに 心のふるさと我らが母校がある。私たちに ウリ稲門会の団結のスクラムがある。これからもともに手を取り合って、私たちと後輩たちのために、もう一歩踏み出そうではありませんか。ウリ稲門会活動に対する一層の積極的なご参加をお願いいたします。最後になりますが、この1年が皆様方にとって楽しく有意義なものになることを切望してやみません。校歌にあるがごとく「仰ぐは同じき 理想の光」

理想の光を仰いでいる人と会うのは楽しい、会えば楽しくなり自身も理想の光を仰ぎ見る。私たちの同窓会はそのような親睦団体であるべきです。ウリ稲門会の会長に就任するにあたり、この同窓会を次の視点で運営したいと思っております。

立つ位置、それはただこの一点「私たちは早稲田の杜で学んだ」ということです。

私達はすでに固く固く結ばれています。今一度、青春時代に想いを馳せ、全てを乗り越え、熱いスクラムを組んで前へ前へ進もうではありませんか。どうぞよろしくお祈りいたします。

活動レポート

2013年納涼会レポート

昨年の夏も暑かった。このころ、梅雨が明けると夏以外の季節があったことを忘れてしまうほどに過酷な日々が続きます。2013年の夏も高温注意報が連日発令される酷暑でした。盛夏の8月を避けて、9月上旬に納涼会を開催することを近年は慣例化しています。2013年も9月7日土曜日に新橋の中華料理の老舗「新橋亭」で開催することとなりました。当日の東京の気温は幸い30度前後。9月開催でありながら過去には最高気温38度という日もあったことを思えば、「納涼会日和」の好日でした。

歴史ある老舗の料理はさすがに美味しく、さらに新橋亭のご好意で秘蔵の年代物紹興酒を供していただき、私たちの舌は滑らかになるばかり。気心した学兄たちの夏の夜の宴は弾みに弾みました。



さあ、校歌斉唱!



当日、結婚式結婚記念日を迎えられた高学兄ご夫妻



関口さん、いつもありがとうございます。



乾杯の音頭は琴栄吉顧問

そして、今回の目玉は東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽四重奏。秘蔵の紹興酒ばかりか、現役トップのストリングスが、私たちのために開宴前から数度にわたって演奏してくれたのです。なんたる贅沢!さらに加えて、母校からのゲスト関口八洲男さん恒例リードによる校歌斉唱の際、その伴奏までしてくれました!弦楽四重奏で奏でられるあのイントロを聴いた時、鳥肌が。宴と芸術が渾然と止揚された、忘れられない夏の夜でした。

その模様は、崔相教副会長がYouTubeに「東京フィルと都の西北」と題してアップされていますので、臨場感あふれる動画で観ることができます。同窓の友人に見せるところ「なんと罰当たりな…」とうらやましそうです。ご覧になってください。



東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽四重奏

拡大幹事会・2013年送年会

2013年12月19日、あいにくの冷たい雨が降る中、顧問を加えた拡大幹事会を新宿明月館で開催しました。2013年の活動を振り返るとともに、今後の予定、課題について虚心坦懐に話し合いました。とりわけ、検討されている奨学金制度については、大学当局の協力の下に年明け早々にアンケート調査をすることが承認され、第一歩を踏み出すこととなりました。その後、送年会に移行。学兄とともに終えつつある2013年に想いを馳せました。



梁直基顧問 姜徳相顧問 李善綜顧問

当日、参加してくれた黄民愛さんからの寄稿を拡大幹事会および2013年送年会のレポートとさせていただきます。

ウリ稲門会の先輩方はじめまして、黄民愛と申します。昨年のウリ稲門会の新年会に初めて参加させていただいてから早1年が経ちました。

私は1977年生です。かつて先輩方が在学中に交流されたような、在日の学生同士が交流できる韓文研のような場があったことを全く知りませんでした。1年前に父を通じてウリ稲門会の存在を知り、早稲田大学で在日韓国人の学生同士が交流していた歴史があったことを知ることとなりました。ウリ稲門会の先輩方を拝察しまして、学生時代から在日学生同士で交流し、社会に出てからも数十年の年月を共に過ごすことができる同胞の友人がいるというのは、とても心強いただろと感じました。ですので、先輩方を本当に羨ましく思っていました。今の在学生にも、先輩方が学生時代に過ごされたような熱い時間を過ごして欲しいと感じています。また、そのような機会が得られるような場をウリ稲門会で作ってあげられたら在学生は幸せだと思います。現にそのような活動もされているとのことで、先輩方が大変嬉しい限りでございます。



末筆になりましたが、初対面で私の名前を見ると、漢字圏で暮らす人々は「中国の方ですか?」と10人中10人の方が聞かれます。名前が降る、仕事でも



姜徳相顧問

最近では中国の方とお付き合いをする機会が増えました。国際的にみると、日本について依然として鎖国的な国に感じる時がありますが、日本は在日韓国人・外国人を通じて国際的に豊かな国になる機会を得ているのではないのでしょうか。在日は母国以外の異国の地で生まれ育ったという点で、国籍を問わず色々な人と

仲良くお付き合いをしやすいというアドバンテージがあると思いますので、自国の歴史を尊重し、周りの人と仲良く暮らしていけたら幸せだと感じます。さらに、早稲田大学は学生数が多く文学部などは女子学生の数も相当数いましたので、ウリ稲門会にもOGのご参加が増えたら大変うれしく思います。

新年会レポート

2週続けて記録的な大雪に見舞われた東京。とりわけ新年会開催日の前日である15日未明までに降りつもった雪は、山間の集落を「孤立」させ、幹線道路を機能不全にするなど甚大な被害を残しました。2014年2月16日、うってかわった曇ひとつない冬晴れのもと、ウリ稲門会新年会は大隈会館で開催されました。入試の真っ只中にある母校の周りにも雪はたふぶり残り、ただならぬ風情をはらんだ冷気が漂っていました。

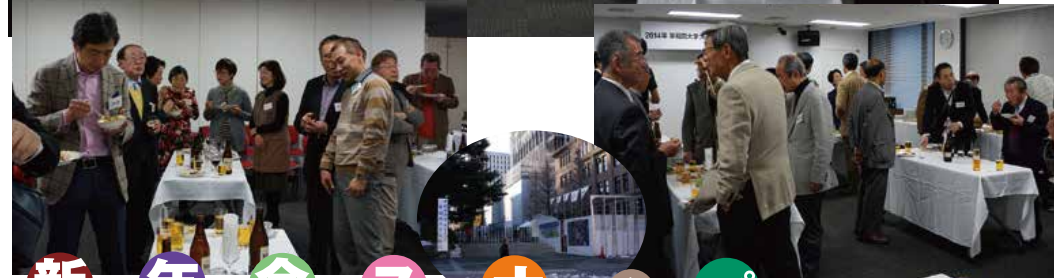
そんな空気を一掃するかのように、巻頭ページに要旨を掲載した、金君夫会長の当会に対する熱意あふれる挨拶で新年会は幕を開けます。当会が直面する課題に、会員各々が思いを新たにすることで。その後、来賓である関口八洲男氏からご挨拶を頂戴し、梁直基顧問の乾杯の音頭で宴が始まりました。崔相教副会長司会のもと、愉快に食し、会話は弾み、学兄のみなさんからスピーチを頂戴しました。90代の大先輩の若さにみんなで驚き、「奨学金制度に関するアンケート」に回答したことをきっかけに会場に駆けつけた20代の現役学生たちに誰もが暖かいエールを送る、同窓会のあるべき姿がそこにはありました。

話し足りない、聴き足りない、残念なことにも楽しい時間は早く過ぎます。最後に恒例の関口八洲男氏リードによる校歌斉唱・エール交換となるところでありましたが、当日は入試の真最中、入試担当の関口氏は業務に戻っていたのでした。久しぶりに編集部が音頭を取り、初々しい現役学生のエール交換も含め、学兄のみなさんに存分に発声いただき、一同拍手の中で散会、二次会突入とあいなりました。

集合写真に納まった笑顔の数だけ、新年の息吹を感じた一日でした。



アンケートに回答し、新年会に馳せ参じた在校生たち



新年会スナック



韓国校友会総会に参加して (2013年12月12日)

3年連続のソウルの冬となったが、今年は気温の割に寒かった。最近の雪で街中が路面凍結で歩きづらい。冷蔵庫のようだ。TVでは、1日中、「北の要人粛清」と「交通渋滞」のニュースを流していた。

会場は例年、ロッテホテルで行われていたが、今年は良才駅の「FOREVER LEADER'S CLUB」で行われた。会場も食事申し分ないが、「ホテルより大分経費が浮いた」とのことで、コストパフォーマンスを考える李賢儀会長の経営者としての一面を覗かした。

当会からは、金君夫会長、金協一ご家族、私及び同伴、計8名の参加となった。当会以外にも、ソウル稲門会(ソウル在住の日本人卒業生)が参加しており、高橋良己会長(SBIコリアHD会長)とも交流を持てた。韓国語がとても流暢で気さくな方であった。昨年は当会、ソウル稲門会とも自己紹介のみであったが、今年は金君夫会長が韓国語で10分以上、熱烈なスピーチをされ、存在を誇示した。(入念に準備していたようだ) 終了後は、金会長、金協一先輩と3人で街にくり出し、ドラム缶のテーブルを開き、コップチャンと焼酎で夜が更けるのも忘れて語りあかしたのであった。(河相淳)



【文学部長ご就任を祝して】

李成市学兄の、我が早稲田大学文学部長への就任の吉報を聞いてから数ヶ月後の2月末日の金曜日、韓国校友会奨学金授与式で再会した縁を大切に、当会金君夫会長以下幹事ら7名は学部長ご就任を恭賀するため小宴を催しました。

処は早稲田には馴染み薄く会長にとっては殆ど地元の銀座にある長寿韓酒房。私たちが在日は滅入る類のニュースが多い昨今大変面白いニュースの一つであり、在日社会の少なくとも一隅を照らすに足る快挙に違いないと思います。

ところで李成市学兄の肩書きは「学術院長、文学部長、第一文学部長、文学学術院教授」であり兼務が多いため仕方なく長く、いかにも近寄りたいたいのですが、そのお人柄は至って素朴・謙虚にして高邁、寡黙にして雄弁、漢文史料等の実証史学を地道に極めてメタ規範、といった印象を醸し出す先輩なのでした。いや、祝賀会では決して雄弁でもなければ大上段に規範を云々なさっていたわけではなく、むしろコトバを大変大切にされる方だなあ(学者なのだから当たり前と思うなかれ)、との心象を禁じ得ませんでした。この方と同じ同窓会に属するだけで自分も同類になれる(わけがないのに)そのような錯覚妄想を、ややもすると誘発されてしまう自分をハタと認めて恥じ入るのでした。

傍目には大学という業界でこの手の世俗的出世を得るため



前列右が李成市学兄

には相当の"調整能力"を要するはずと思えてしまうところ、学兄の歴史学上の地道な数々の実績とそのお人柄が日の目をみたことに、衷心より喝采せざるを得ませんでした。殊に、昨今の痛々しい陰謀史観と結び付いたリビジョンズムの蔓延は未だにその勢いを失ってはならず、李先生の実証史学が担う役割の普遍的な重要性は日々高まっていると思います。今後の一層のご活躍を謹んで祈念致す次第です。(記 富男)

私的関西礼賛

趙宏濟 (1992年卒)

いきなりですが、次の地名、駅名を読めますか。

- ①杭全 ②立売堀 ③井池 ④放出 ⑤王仁公園 ⑥喜連瓜破 ⑦味舌 ⑧大物 ⑨間人 ⑩京終 ⑪三田。

いかがですか。皆様の漢字力を試そうなどという気は毛頭ありません。知識があっても読めないものがあります。特に⑨です。漢字と読みとは全く関係ないからです。これらは私がこよなく愛する関西の地名、駅名です。正解は最後にとっておきます。

横浜に生まれ育ち、入社5年目で転勤になるまで関西を知りませんでした。1996年2月、大阪に向かう新幹線の窓から関ヶ原に吹き付ける雪を見て「都落ちか」と寂しさを禁じ得ませんでした。ただそのような感情も一週間で消え失せました。

「ブシューっつうたで。この角曲がると自転車屋さんやから。かわいそうになあ、アメちゃんあげよか?」。自転車がバンクしたときに近くにいた全く見えず知らずのおばさんから掛けられた言葉です。

書店で大きい辞書を抱えてレジに並んでいました。「お兄ちゃん(当時は若かったんです)、その辞書買うの?それやったら、これあげるわ」。このときも全く知らないおばさんから割引券をもらいました。



「兄ちゃん(くどいようですが、若かったんです)、ちょっと待っててや」。大阪市営地下鉄の50歳代と思われる駅員さんに道を尋ねたところ、その駅員さんは即答できませんでしたが、親切にも地図を見て調べてくれるというのです。その対応に感激しながらも、関西間もない私は内心「あなたの方が年上ではないか」と腑に落ちなかったものです。

ことほどさように関西の人はフレンドリーです。声が大きいですし、喜怒哀楽をはっきり表現します、信号も関東の人ほど守りません。私は銭湯が好きなので営業開始とともに「さあ一番風呂だ」と期待して浴場に入ると、なぜか数人の先客がいます。

営業終了時間に銭湯から出ると、その時間から風呂に入りに来る客がいます。いったい営業時間を何だと思っているのか。それを許す店側も大したものです。なんとなく韓国に似ていると思いませんか?

2年前まで兵庫県尼崎市に住んでいました。自宅は大阪の中心、梅田駅から各駅停車に乗って9分の駅。わかりやすく東京に当てはめれば、JR中央線で東京駅から四ツ谷駅の距離です。そんなところでしたが、梅雨の時期になると蛙がうるさいくらいです。自宅から徒歩1分の川には蟹がウジャウジャといました。珍しくもないので、子どもすら興味を示しません。悠々と泳ぐヌートリアが川面に輪っかをつくっていきます。

家は駅から5分、築10年以内の広めの2LDK。1階だったので庭まで付いています。毎年6月になると、ムラサキカタバミが美しい花を咲かせました。それでいて家賃が8万円。

阪神タイガースの勝ち負けはテレビなど無くても、窓を開けていれば分かります。近隣の家から絶叫やら、歓声やらが耳に飛び込んでくるからです。特に階上の住人はタイガースが勝つと試合終了とともに「ろっこうおろ〜にさっそうと〜」と声高らかに歌います。タイガース応援歌「六甲嵐(おろし)」です。これが聞こえないと「ああ、今日は負けたのか」と察しがつきます。念のため申し添えますが、私はタイガースファンではありません。

それでもこの六甲嵐。自然と覚えました。口ずさむうちに「なんか歌いやすいな。かつて歌っていたような」と感じ始めました。幼少期もタイガースファンだったことはありません。「なんでかな」と長い間、不思議に思っていたのですが、ある日気づきました。

作曲者です。なんと古岡裕而氏なのです!そう、皆さんもうお分かりですよね。早大応援歌「紺碧の空」の作曲者です。ここに共通点があったのです。試しにYouTubeでも何でも結構です。「六甲嵐」と「紺碧の空」を聴き比べてみてください。私は似ていると思うのですが、どうでしょう。

ユーモアにも触れなければ。

「あの一、それだけずぶ濡れでしたら傘は必要ないんじゃないですか」。

ゲリラ豪雨の日自宅近くのコンビニから発せられた公式ツイッターです。おそらくずぶ濡れの人が傘を買いに来たのでしよう。

お盆の暑い日には「30分おきに缶ビールを1本ずつ買いに来るお客様がだんだん壊れていってます。何を言っているのか理解できなくなりました」。もう一本、もう一本と酒の誘惑に負け、少しずつへべれけになっていく様子が目に浮かびます。客に対して失礼な、と不愉快に感じる向きもあるかもしれませんが、個人的にはこれくらいは許容範囲かなと。

気の置けない人たち、優れた住環境。これで関西を嫌いになれというのが無理というものです。すっかり魅了され、東京に戻ってきてその都度、関西転勤を願い出しました。都合3回、11年と1カ月を関西で暮らすという幸いを得ました。

2年前に関西を離れて一度もかの地を訪れていません。今年1週間かけて関西を回ろうかと画策。これが頭をよぎる度にわき出る笑みを隠せません。

恐ろしいほど山深い奈良県上北山村、明治38年にオオカミが最後に捕獲され、今でもオオカミが出てきそうな奈良県東吉野村鷲家口、おしゃれなイメージがありながら六甲山から降りてきたイノシシが時には親子連れで住宅街を歩き回る神戸、京都亀岡と兵庫姫路を結ぶのどかなのどかなデカンショ街道、日本海の青をキャンバスにして桜がひときわ美しい兵庫県餘部、朝鮮半島とゆかりが深く各所にその痕跡を残す丹後半島などなど。ここには紹介できないほどです。みなさんぜひ一度関西に足を運んでみてください。個人的には春と秋の日本海がおすすめです。

文頭の地名、駅名の読み方です。①「くまた」(大阪市)②「いちばり」(大阪市)③「どぶいけ」(大阪市)。繊維問屋さんが多いところ。④「はなてん」(大阪市)。これは中古車販売会社のCMで有名でしょうか。⑤「わにこうえん」(大阪府枚方市)。5世紀初頭に朝鮮半島から渡来した王仁博士が由来です。ここからは少し難しいです。

⑥「きれうわり」(大阪市)。大阪市営地下鉄のれっきとした駅名です。初めて目にした時、その読みに衝撃を受けました。何かの四字熟語かと。この駅名は喜連と瓜破という地名を合わせたものですが、喜連は渡来人との関係が指摘されています。⑦は「ました」(大阪府摂津市)。地名としてはすでに残っていませんが、学校名などに使われています。味、舌という漢字の持つイメージが手伝い、つい韓国語の「マシタ(おいしい)」を連想させます。それにしても「味」は音でも訓でも「ま」とは読まないですよ。なぜ「ま」と読む?⑧は「だいまつ」(兵庫県尼崎市)。決して「おおもの」ではありません。これも阪神電鉄の駅名です。自宅から割と近かったです。⑨は「たいざ」(京都府京丹後市)と読みます。大好きな丹後半島にあります。どうして「たいざ」と読むのか是非調べてみてください。面白いですよ。冬はおいしいカニが名物。⑩「きょうぼて」(奈良市)。かつての平城京の南端にあたるそうです。⑪は「みた」ではありません。「さんだ」(兵庫県三田市)と読みます。関東から来た人間はたいてい読み間違えます。